

琉球大学学術リポジトリ

調査回答書：トラック島山口祥吉より

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2018-04-16 キーワード (Ja): 矢内原忠雄, 南洋, トラック, 調査 キーワード (En): Yanaihara Tadao 作成者: 矢内原, 忠雄 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/38090

矢内原忠雄文庫

史料名	トラック島山口祥吉より質問への回答
封筒番号	157
原文所蔵者	琉球大学附属図書館
撮影年月日	平成17年11月10日
撮影者	富士写真フイルム株式会社
備考	

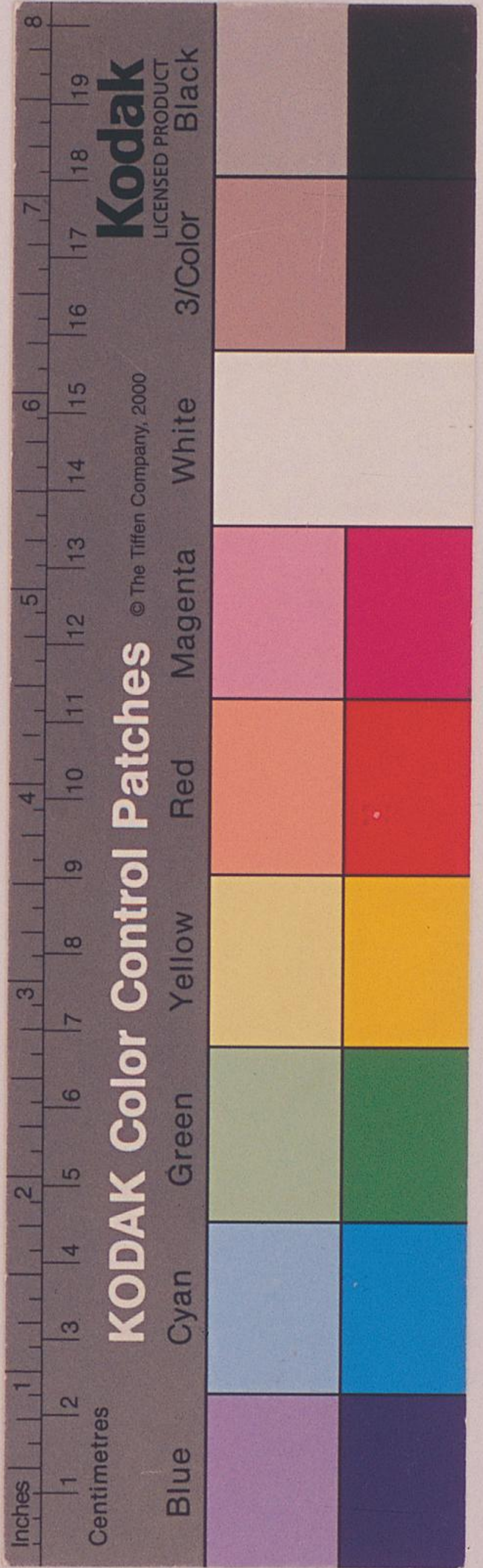
矢内原忠雄文庫

封筒番号： 157

史料名	トラック島山口祥吉より質問への回答
資料形態	便箋
枚数	7
页数	7
縦 (cm)	
横 (cm)	
厚さ (cm)	
書誌的事項	南洋 白紙1枚を含む7枚 今泉分類記号： M

トランプ島
山口祥吉

軒復、南洋群島民宗教に因る「質問書」に対し
 大要を記しおく。此中「使用語多し」云々の我れな
 から述べて置る。一、増あるも「海客」程弱し候
 一、当地に於ける「傳道」の對象と「聖典」
 一、キリストの島民
 二、傳道用語は「印土語」トウツ語を用い、南洋(日本統治)各
 群島毎に「具用語」を異にする。
 ハ、土語に譯された「新約全書」並に「舊約聖書」の一部と「讚美
 歌集」あり。
 三、島民の宗教に対する理解力
 一、島民在来の宗教思想。古来トウツ島民も其神觀
 念を持つて来た。恐怖の對象や不可解な事象を「通」し其
 自體若くは作用の神の所業と觀て来た。従つて多神論で
 シ、この神々の名が異なつてある。其等の中にも自ら主神
 があり、其名を土語で「Jukeilangs」呼ぶ。神は彼ら上から
 善悪二神に區別されてある。以上の神格は自然神で、人の死後



1/10

神の有り様もありとも考へられ前者は総称としてトラス語
でAnuと呼ばれ後者はSoumeと呼ばれてある。

神意を知り且つ之れをとりあす者として少くも神秘的人間
が従事して来た。之れを土語でSouanuと云ふ。日本の神主と
イナコを兼ねたものである。

人に依らずして神意を知る方面に占算あるものが古来廣
く世に行はれて来た。其やり方は支那に起つて日々に似てある
彼れはサングンセイナクを用ひるが此れは二本のヤシの葉を
用ゐる。支那の八卦に對し之れは四卦になつてある。土語で
これとPaveと称す。

当群島には五十年前からキリスト教渡来し皈依する者年
々増加し今日には人口の四分の三は皈依者となつてある。然し
彼等従来の宗教観念も相当根深く今尚ほ一部の者同様に作中
してある。

只、彼等は教化の結果文明人に近き處のの能性ある乎。
遺憾ながら彼等は文明人に近き處の性純は無いと言はねば

なぬ。それは智能的に極まる者であること。偏りに借すに永い世紀
と異(に)こゝも彼等が文明人の自ずる智能程度に甚遠する
前に恐らく民族として滅亡しては舞ひであらう。

三傳道が島民生活に與つたる好影響

新来の宗教に傳へられた者や接した者達がどう變つて来たかを考
へるに宗教具もの感化と宗教を説く人の感化が彼等の上に反影
してゐるのを見る。然し此等は人の感化の方面は生へずには置く。宗教の
感化としては(1)性格の變化で、先に癡猛にして羊飼と事として彼
等が平和の愛好者になつたこと。(2)生活意識上の變化で、恐怖の暗
黒を前途に抱いてゐた生活観念から解放せられ光明を希望を持有う
になつたこと。(3)生活の態度が規律的になつて来たこと。(4)先に野獸的な
りし歪性關係が人倫的に傾いて来たこと。(5)迷信の減つたこと。等が挙げ
られる。

キリスト教が傳へられて以來島民に在るの跡は良くなつたと教へた為め彼の
踊る者が無く日つて来た。これに對し彼等固有の舞踊を保存せよと云
ふにキリスト教はこれに滅すと云ふ非難がある。然しこれは立協の相違で

見解も異なり、想ふ存故、徳望行動を定認するか否か、見解は自
 う異ふ。元来島民の踊は書でなく、夜行はれて来た。これには理由があること、
 職と云ふものを持たぬ、徳望と云ふものは其徳望行動に都合のよい時を選ぶ
 夜は涼しい。踊は赤世の前提で踊は叢中に盛りに行はれる。疲れたば
 書は終日暮らも、徳望の生存には何の支障もない。故に書は踊は
 徳望は好まぬ。

四、支配国と教化事業

教化事業に對し支配国の相違は、自具の針はも相違のあつたこと、規範
 はれる。スペイン時代は刺殺の罪もあるたうが、格別力を入れに様子か
 見えぬ。他令は其国を異にし、又信ずる岸をささ異にする、米人宣教師
 がハワイを經てマシーヤル、サイ、ポナペ、トラック、道一々に傳道つ、
 あつたこと、も知られやう。

和逸時代にあつたは、教化は、宣要なる施政の項目とり、宣教師の扱は
 政廳吏員、凌駕し、学教の年なる、教育事業も亦、宣教師の年
 に委ねられてあつた。故に和時代にあつたは、島民一般も、宣教師の言を
 能く信じて背かばいんと、勢の風があつた。

日本統治になつてからは宗教に取締主義を以て喧嘩するもの、如く地方官東洋の宗教に對する理解を欠き教化事業上遺憾の点鮮やあらざるものがある。

五島民教化上の注意若くは希望

1. 教化上から島民の経済生活を觀ると島民に餘り大きな収入は希望しない。自利心もない慾望に驅られ行動する傾向の極端に強い彼等に金銭がゆえに富むならば金に飽く富人に争せられ其結果好ましくない。これを教化上に觀るは明白である。さればとて餘り金をもたらさない。文明人と接觸し生活を始めた以上は其生活の向上は免れない。故に産業事業上にも漸進的指導を與へて彼等の収入を計つてやる必要がある。それとやがては彼等自力で教へる維持の手段の経費も支出し得る區に進めたりせよ。其地に進んでくる教化事業も彼等の間に始めて根を下したと言ひ得るがある。

2. 島民教化と言ふ見地からすると今日裏南洋に見るが如き多くの内地人の雜居は好ましくない。それは彼等島民は内地人から強い感化は受けるどころか極端に少く、反對に悪い感化を多く受けるからである。

3. 結核と性病が文明人と雑居の顯著にたりたるを認め、指導者たる文明人の責任として、島民に対し衛生的設備の指導は大に力を大れる必要がある。また島民教化の精神より、純粋の心ば、彼等が現に直面せざる民族的大問題としての死滅の途に入らざるの危殆より、彼等を救ふ有力なる方法として衛生的指導の施設は大に講じられたい。

4. 教化を急ぐ以上衛生の教育は重要なる指導項目として、時を忽ち出来ぬが、智能者等なる彼等に高い教育を自指す必要はない。低くとも、廣く、智者よりも徳育に重きを置き、迷信の打破、合理的生活の導明に力を入れたい。

六、島民人口増加率の少ない理由

(1) 彼等の生活状態が非衛生的であること、(2) 無知なことを、假令は熱病で苦しい時水浴をなしぬるある場所には、涼を求めて死を招くことか、また一年中、軽ゆることのない、赤痢のやうな病気で、下痢の爲めに體の衰弱するを防く方法を考へ、無暗に病人の口に食物を詰め込んて、死七九卒を為めてゐる等、(3) 外国人との雑居から新らしい病気が輸入せられ、島民は新未

の病氣には抵抗力が極端に弱く、新来の病氣中結核と性病は今や彼等々の
日に蔓延し、その猛威を振ひつゝ、あまたのやがて彼等は人の上から消滅するに
民族的に滅亡の途を辿るの日も決して遠くはないと想ふ。それは島によつて
は既に人口の減少を見るやうになつたからである。

以上の簡短ながらの返事です

山本

山本祥吉

矢内原忠雄様

